



since 1953



会社案内  
COMPANY INFORMATION

ものづくりの  
楽しさを  
知る職場。



■社章について  
左側3本線は小林精機の3つの特徴を表します。

- ①半世紀築いた大きな基盤
- ②自由な発想と挑戦心
- ③社員同士の信頼感

右側は精密機器の頭文字「S」を表します。  
この2つを組み合わせると「小林精機」という企業が  
形成されることを意味し、  
小林精機の頭文字である「K」を表現しています。

会社概要

創業 昭和28年(1953年)10月  
設立 昭和52年(1977年)2月  
資本金 3,500万円  
代表者 代表取締役会長 小林清之  
代表取締役社長 小林 要  
事業内容 各種精密機械部品の加工及び組立、  
自動化・省力化機器の設計製作、  
コンピュータソフト開発等  
生産品目 医療分析装置部品、化学分析装置部品、  
バルブ部品、自動弁、産業用機械部品、  
航海計器部品、光学機器部品、自動車部品、  
工業計測機部品、半導体製造装置部品、  
コンピュータ周辺機器部品、工作機械部品、  
その他試作品、試験片等

沿革

- 1953年 創業者小林憲吉が盛岡市志家町にて「小林精機製作所」の営業を開始
- 1958年 盛岡市山王町に移転
- 1977年 資本金300万円で法人設立、社名を「有限会社小林精機」に変更
- 1978年 小林清之代表取締役就任
- 1989年 滝沢村大崎に本社工場移転
- 1990年 資本金を500万円に増資、岩手県機械金属厚生年金基金加盟
- 1991年 大崎工場第2工場棟完成
- 1992年 資本金を1,000万円に増資
- 1996年 岩手県より中小企業創造活動促進法の認定を受ける
- 1997年 大崎工場研究開発棟完成
- 2000年 大崎工場第3工場棟完成
- 2001年 社名を「株式会社小林精機」に変更、ISO9002認証取得
- 2003年 設計部門を含め、ISO9001認証へ移行
- 2005年 大崎工場第4工場棟完成
- 2009年 環境マネジメントシステム「KES」認証取得
- 2010年 資本金を2,000万円に増資
- 2011年 (株)リコーグループ化学物質管理システム認証取得
- 2012年 盛岡西リサーチパークに本社工場移転(第1、第2工場新設)
- 2013年 ISO14001認証取得
- 2015年 切削加工の関連会社(株)コバテックを設立
- ” 本社第3工場(検査ロジスティックス棟)完成
- 2017年 小林清之代表取締役会長就任、小林要代表取締役社長就任
- 2018年 東京中小企業投資育成(株)より資本投資を受け資本金3,500万円に増資
- ” 経済産業省より地域未来牽引企業の認定を受ける
- 2019年 第4工場(コバテック棟)および第5工場完成
- ” 経済産業省より事業継続力強化計画の認定を受ける



Human & Metal  
INTERFACE



# 人と金属の インターフェイス

小林精機が目指すのは、人と金属のインターフェイス。ものづくりの向こうには、それを待つ人が必ずいます。私たちの役割は金属を通して人々の生活を支える力となること。開発力、技術力、人間力を結集し小林精機は豊かな未来を創造し続けます。

## 小林精機の特徴 – DXへの挑戦 –

### 01 「里山づくり」で受け継いだ熟練の技術で届ける精密部品

切削加工の本質を理解するためには、目で見、加工の音を聞く、手で振動を感じる、油の焼けた匂いを嗅ぐ、機械の温度を感じるなど、五感で知ることが重要です。「五感を駆使し、自ら考えることが出来る人材を育てたい」との想いから、当社では「里山づくり」と題し、根本に立ち返り、汎用旋盤・汎用フライス盤による技能訓練に取り組んでいます。

コンピュータ内蔵のNC旋盤、CNC自動盤、マシニングセンタ(MC)のNCプログラム作成技術の教育も実施。技術に対する意識を高めるために、国家技能検定や社内検定にも積極的に挑戦しており、資格保持者は全体の半数以上に上ります。

### 02 省力化装置の開発で、生産の合理化をサポート

生産の効率化、技術力向上のために、岩手県工業技術センターと共同で省力化装置を設計開発しています。開発した装置はお客様のオーダーでカスタマイズも可能。多彩な加工設備と内製の省力化装置に加えて、7軸制御AI協働ロボットなどのロボットも積極的に導入し、活用しています。

また、これまで培ったメカトロ技術をスマート農業に活用し、小規模農家向けの小型の播種機の開発も行っています。生産の効率化を図るための省力化装置に加え、様々な分野の装置開発に挑戦していきます。

### 03 多品種少量にも、超短納期にも対応可能な生産体制

試作品の1個から数万個の生産まで、月6,000件以上の発注に対応。超短納期ラインでは、受注当日に加工をスタートし、翌日には全国に出荷しています。

更なる短納期を実現するため、検査工程の自動化を目的とした画像検査装置の開発に取り組んでいます。完成すれば、納期短縮だけでなく、品質の向上にもつながります。



市場ではグローバルな競争が激化しています。さらに、デジタル技術の発展で、新興国の製品品質が高まる中、革新的な技術を用いながらも熟練の技をさらに磨いていく、両輪のものづくりが求められています。

小林精機では、多品種少量のオーダーにスピーディー、かつ確実に対応することに加え、産学官連携や自社にはない技術を持つ企業とのコラボレーションに積極的に取り組んでいます。県工業技術センターとの共同による、小規模農家向けの「種まき装置」など、自社製品開発にも力を入れ、着実な成長を目指しています。

創業70周年を迎えた今こそ、創業からの思いを引き継ぎながら、ものづくり企業としてさらに発展していく時期です。経営基盤をしっかりと固め、堅実に事業を拡大することで、ひいては地域の雇用の場の確保にも貢献していきます。

代表取締役社長 小林 要



革新と熟練の技術で、さらに発展する企業を目指す